YAMAHA
ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。
取扱説明書
MAJESTY S
XC155
2LD-F8199-J1

JAU27264

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

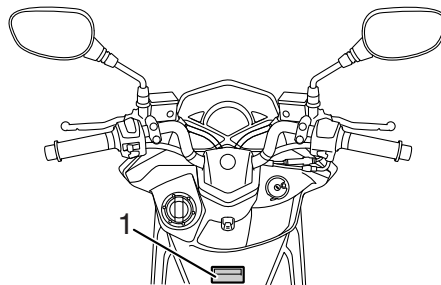
JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAUT4080

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

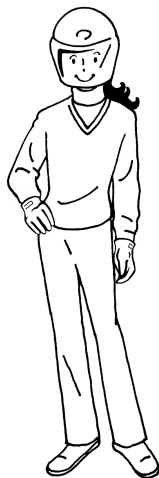
運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

1. 安全項目ラベル

⚠ 警　告
・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。 ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。 ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。 ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。 ・違法改造はやめましょう。 ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

5SU-F118K-00

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。

- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服

● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

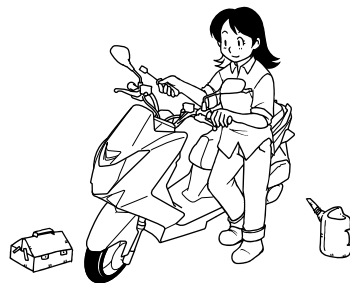
● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

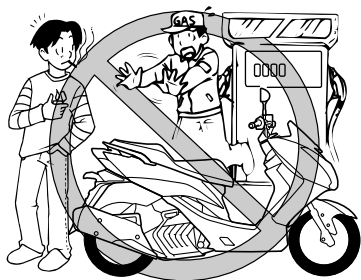
事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年､2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受

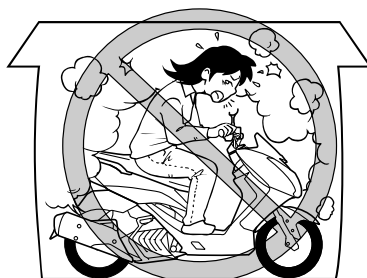
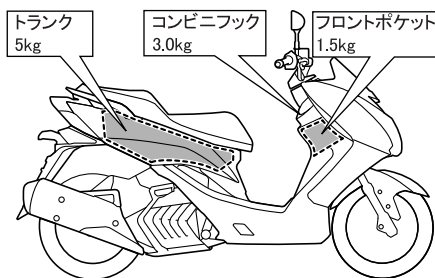
けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物を積むときは

- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずリヤフットレストにのせさせます。

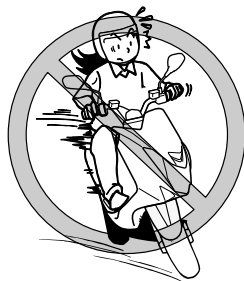
押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。
やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。
スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。

乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。
タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

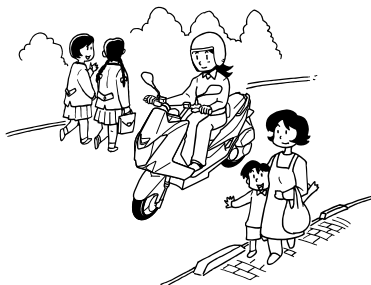
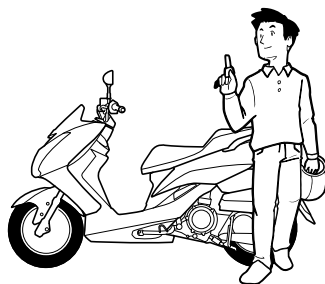
自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。

JAUT3072

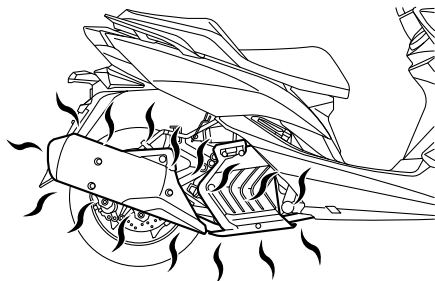
歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーシャッターを閉めて、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

⚠ 警 告

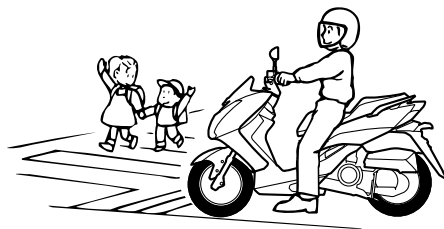
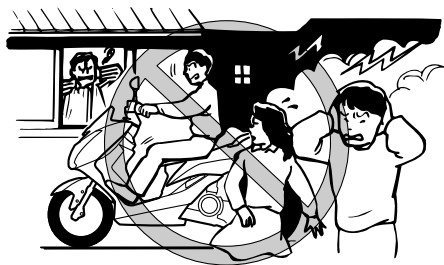
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

昼間はヘッドライトを下向きに

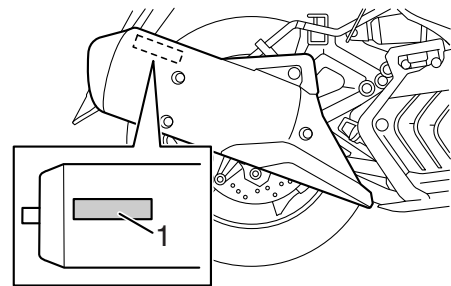
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27671

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

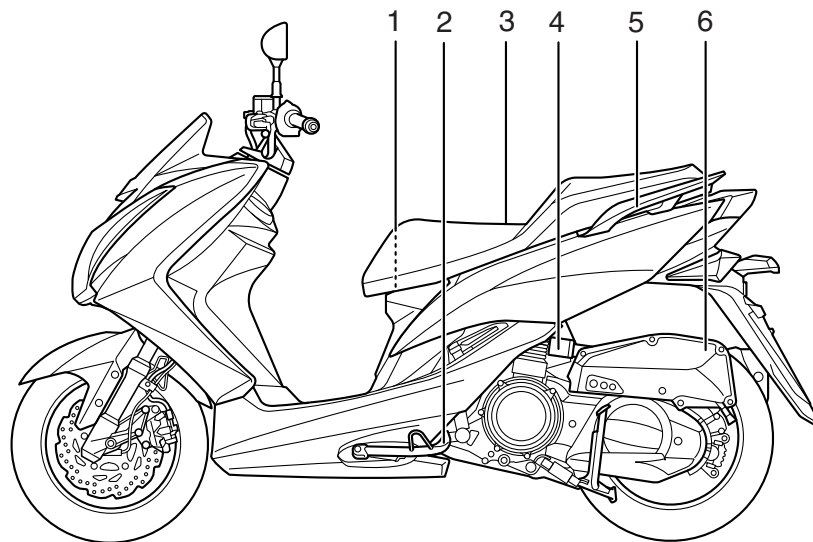
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

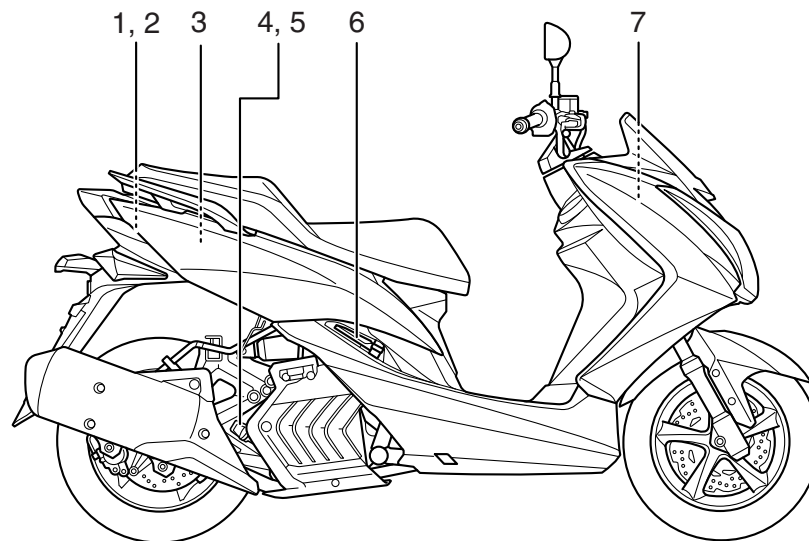
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

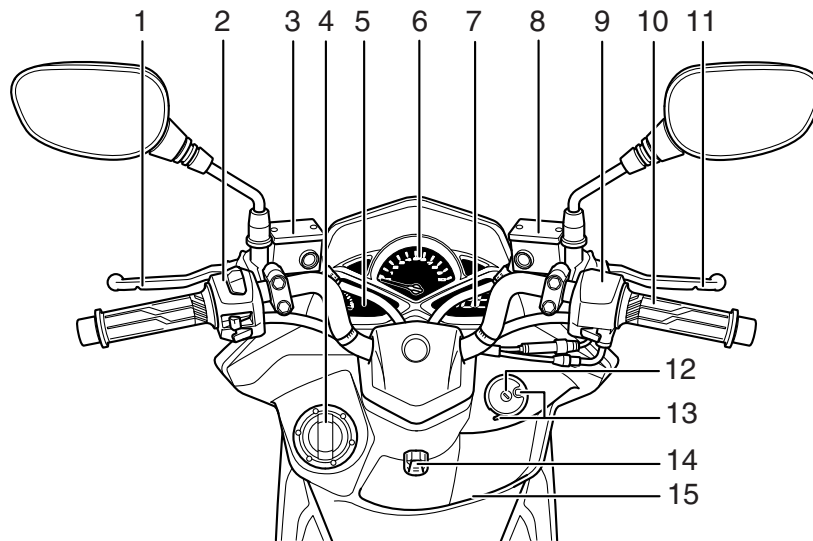
左側面

1. ヘルメットホルダー（P3-12）
2. サイドスタンド（P3-15）
3. シート（P3-11）
4. リヤクッション（P3-14）
5. スタンディングハンドル（P3-15）
6. エアクリーナー（P6-7）

JAU10421

右側面

1. バッテリー（P6-14）
2. メインヒューズ（P6-15）
3. トランク（P3-14）
4. オイルレベルゲージ（P6-3）
5. オイル注入口（P6-3）
6. タンデムフットレスト（P3-11）
7. 系統別ヒューズボックス（P6-15）

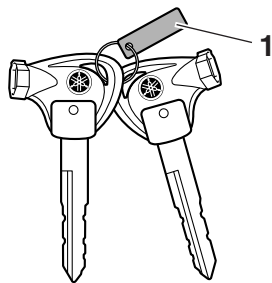
各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

1. リヤブレーキレバー（P3-9）
2. ハンドルスイッチ（左）（P3-7）
3. リヤブレーキマスターシリンダー（P6-12）
4. フューエルタンクキャップ（P3-9）
5. 燃料計（P3-4）
6. タコメーター（P3-4）
7. マルチファンクションディスプレイ（P3-5）
8. フロントブレーキマスターシリンダー（P6-12）
9. ハンドルスイッチ（右）（P3-7）
10. スロットルグリップ（P5-3）
11. フロントブレーキレバー（P3-9）
12. メインスイッチ（P3-1）
13. キーシャッター（P3-3）
14. コンビニフック（P3-13）
15. フロントポケット（P3-13）

JAU50221

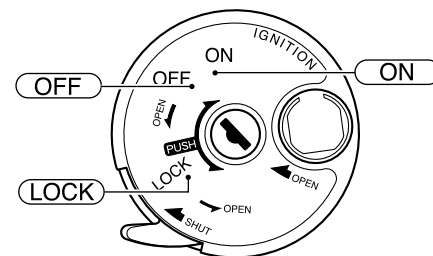
キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは 2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。
- キーを紛失または破損したときのため、キーリングに掛かっているタグに打刻されたキー番号を 9-3 ページのキー番号記入欄に記入しておいてください。詳しくは販売店にご相談ください。

1. タグ

JCA12502

注 意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

JAUT2402

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロック、シートのロック解除を行います。

JWA11621

警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがり

3

の原因となります。

要　点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAUT3391

ON

- エンジンの始動ができます。
- キーは抜けません。
- テールランプ、メーター灯とマーカーランプが点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。

要　点

メインスイッチを ON にしたとき､2 ～ 3 秒間フューエルポンプ作動音がすることがあります。

JAU46011

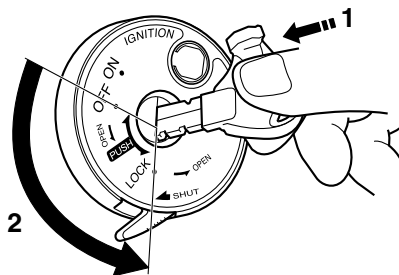
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10686

LOCK

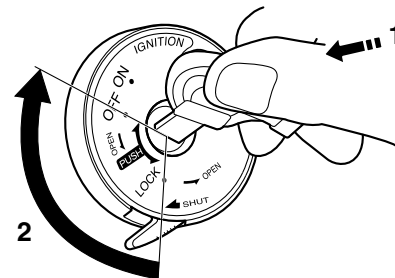
ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた

1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

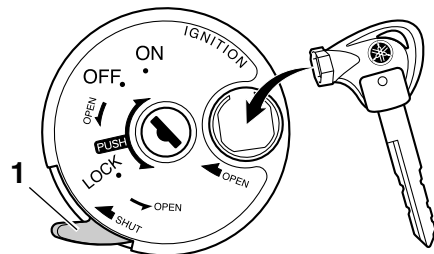
ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた

1. 押す
2. 回す

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAUT3011

キーシャッター

メインスイッチのキー孔をガードします。キーシャッターの開閉は、キーとキーシャッターレバーを使って行います。

1. キーシャッターレバー

キーシャッターを閉じるとき

キーシャッターレバーを押すと、キーシャッターが閉まります。

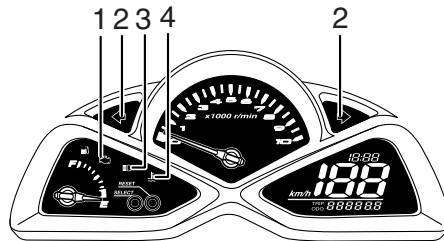
キーシャッターを開けるとき

キーのマスコット部にある突起部分をメインスイッチにあるくぼみに差し込み、右に回すとキーシャッターが開きます。

要　点

キーのマスコット部にある突起部分には溝があります。突起部分をくぼみに差し込むときは、溝に合わせて差し込んでください。

JAU1100B

警告灯と表示灯

1. エンジン警告灯 “ ”
2. 方向指示器表示灯 “⇦/⇨”
3. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
4. 水温警告灯 “ ”

JAU11032

方向指示器表示灯 “⇦/⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAUT2421

水温警告灯 “ ”

エンジン冷却水が規定温度以上になると点灯します。

要　点

- 警告灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にするとしばらく（2 ～ 3 秒間）点灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が消灯した直後に、メインスイッチを OFF → ON にしても点灯しないときがあります。これは故障ではありません。

JCAT1091

注　意

- **万一、走行中に水温警告灯が点灯したら、エンジンを止めてリカバリータンクの水量を点検してください。**
- **長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯することがあります。このときは、走行するか、エンジンを止めて冷やしてください。**

JAU11486

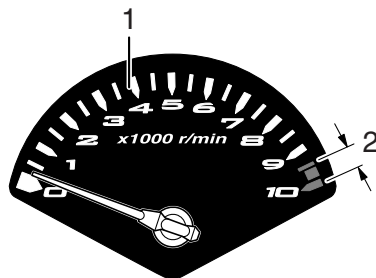
エンジン警告灯 “ ”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

- この警告灯は、キーを ON にしたときに約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- キーをONにしたときに警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてくださ

い。

JAU11873

タコメーター

1. タコメーター
2. レッドゾーン

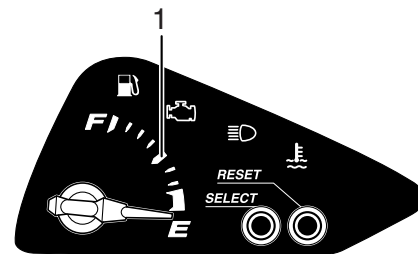
毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 9500 r/min 以上

JAU12141

燃料計

1. 燃料計

燃料計は、フューエルタンク内の燃料の量を示します。指針が “E” に近づいたら、早めに給油してください。

要 点

- 燃料計はメインスイッチがONのときに作動します。
- 残量の確認は、平坦な場所で車を垂直にし、メインスイッチを ON にして行ってください。

JAUT3972

マルチファンクションディスプレイ

1. “SELECT” ボタン
2. “RESET” ボタン
3. オドメーター表示 “ODO”
4. エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”
5. トリップメーター表示 “TRIP”
6. スピードメーター
7. 時計

JWA12161

警 告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- スピードメーター（車の速度を表示します。）
- オドメーター “ODO”（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター “TRIP”（リセットしてからの走行距離を積算します。）
- オイル交換トリップメーター “OIL CHANGE” 点灯（前回エンジンオイルを交換してオイル交換トリップメーターをリセットした後、走行した距離を積算します。）
- エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” 点滅（エンジンオイルの交換時期になると点滅します。）
- 時計

要 点

- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、その後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。
- “SELECT” ボタンや “RESET” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。

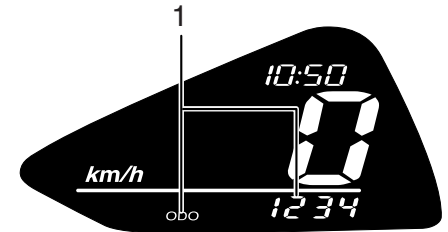
“SELECT” ボタンを押すごとに、オドメーターとトリップメーターの表示が以下の順に切り替わります。

オドメーター “ODO” → トリップメーター “TRIP” → オイル交換トリップメーター “OIL CHANGE” → オドメーター “ODO”

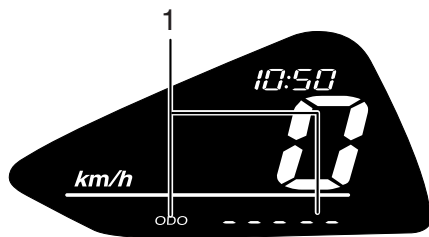
スピードメーター

車の速度を示します。

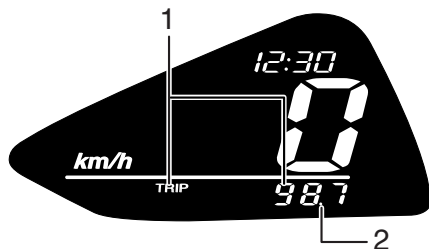
オドメーター

走行した総距離を表示します。

1. オドメーター

要 点

オドメーターが “-----” を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

1. オドメーター

トリップメーター

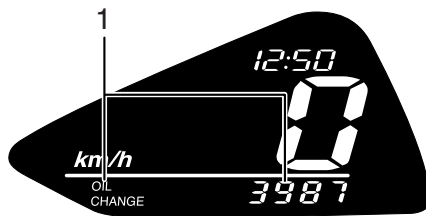
“TRIP” を表示すると同時に走行距離表示部に小数点を表示し、前回リセットしてからの走行距離を積算して表示します。

1. トリップメーター表示 “TRIP”
2. 小数点

トリップメーターをリセットするには、“SELECT” ボタンで “TRIP” を表示させ、“RESET” ボタンを 1 秒以上押します。

要　点

トリップメーターが “-----” を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

オイル交換トリップメーター

“OIL CHANGE” が点灯し、前回オイル交換トリップメーターをリセットしてからの走行距離を積算して表示します。

1. エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”

オイル交換トリップメーターをリセットするには、“SELECT” ボタンでオイル交換トリップメーターを表示させ、“RESET” ボタンを 3 秒以上押します。このとき、エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅していれば、同時にリセットされて点灯に変わります。

要　点

- リセット後 “SELECT” ボタンを押すと、オイル交換トリップメーターからオドメーターに切り替わります。
- オイル交換トリップメーターが “-----” を表示した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”

エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は走行距離が 1000km になると、以降はリセット後 3000km 走行すると表示が点滅します。エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅したら、早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイル交換後は、必ずリセットしてください。リセットのしかたは、オイル交換トリップメーターの項目を参照してください。

エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が点滅する前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行すると、交換時期がずれてしまいます。

要　点

エンジンオイル交換表示を初回1000kmのオイル交換前にリセットした場合、以降のエンジンオイル交換表示の間隔は3000kmごとになります。

時計

時刻調整のしかた

1. オドメーター表示中に “RESET” ボタンを3秒以上押します。
2. < 時 > の表示が点滅したら、“SELECT” ボタンを押して<時>を合わせます。
3. “RESET” ボタンを押すと、<分>の10の位の表示が点滅します。
4. “SELECT” ボタンを押して<分>の10の位を合わせます。
5. “RESET” ボタンを押すと、<分>の1の位の表示が点滅します。
6. “SELECT”ボタンを押して<分>の1の位を合わせます。
7. “RESET” ボタンを押すと時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

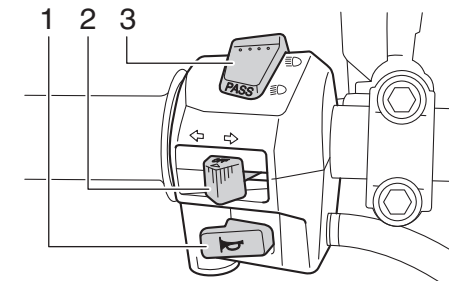
要　点

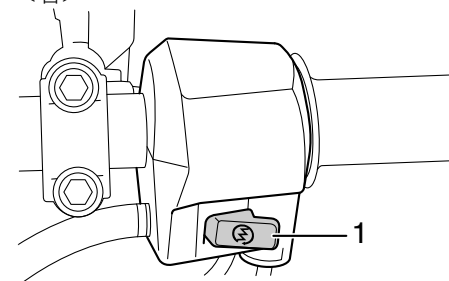
時刻調整中、30秒以上 “SELECT” ボタンまたは “RESET” ボタンを操作しないと、調整前の時刻のまま時計表示に戻ります。

JAU1234H

ハンドルスイッチ

<左>

1 2 3

1. ホーンスイッチ “”
2. 方向指示器スイッチ “/”
3. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “/ /PASS”

<右>

1. スタータースイッチ “”

JAU54201

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ "≣D/≣D/PASS"

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

≣D（上向き）：遠くを照らします。

≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの配光が下向きのときに "PASS" 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが "≣D" のときは使用できません。

JAU12461

方向指示器スイッチ "⇦/⇨"

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠ 警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ "📯"

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAUT3980

スタータースイッチ "⚙"

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

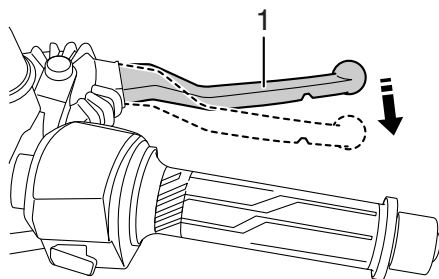
JCA11882

注 意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。**

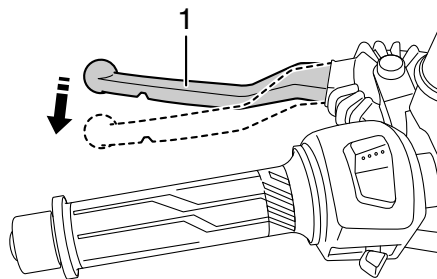
要　点

この車には、傾斜角センサーが装備されています。万一、転倒などで車が倒れた後にエンジンを始動させるときは、キーを一旦 OFF にしてから ON にし、始動してください。

JAU12902

フロントブレーキレバー

1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

JAU12952

リヤブレーキレバー

1. リヤブレーキレバー

リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

JAU13075

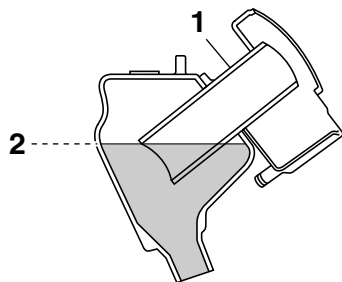
フューエルタンクキャップ

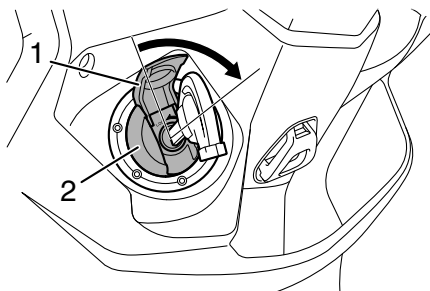
JWA12172

⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

に閉めてください。

1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた

1. ロックカバー
2. フューエルタンクキャップ

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
　約 7.4 L

JCA12512

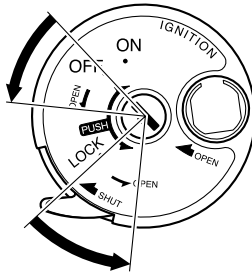
注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAUT4850

シートの開閉（シートロックオープナーの使いかた）

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを OFF または LOCK から OPEN に回してシートを開けます。

要　点

キーは押しこまないで回してください。

シートの閉めかた

シートを押さえて降ろし、シート後部を押さえてロックします。

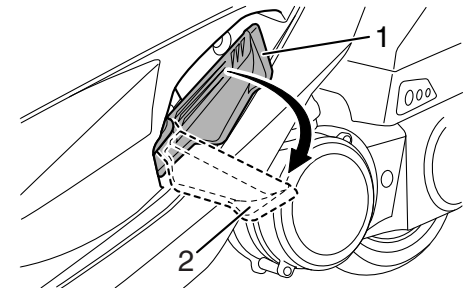
要　点

- シートを降ろしたら確実にロックされているか確認してください。
- キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。

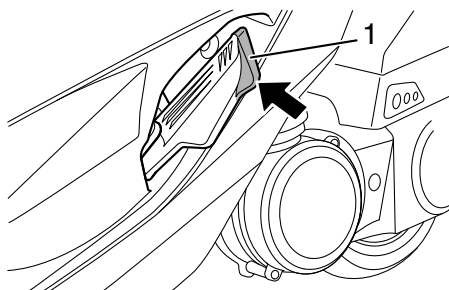
JAUT3891

タンデムフットレスト

タンデムフットレストには格納位置と乗車位置があります。

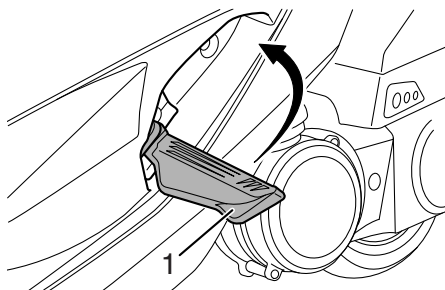
タンデムフットレストを使用しないときは、格納位置にしておきます。

1. 格納位置
2. 乗車位置

タンデムフットレストの出しかた

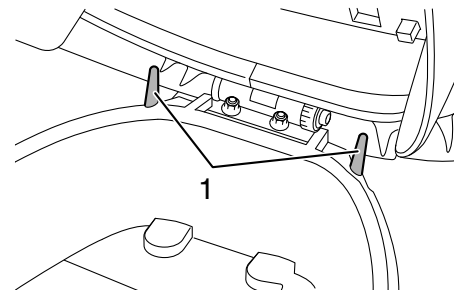
1. タンデムフットレストの先端部を手で矢印の方向へ押します。

1. 先端部

2.「カチッ」と音がしてロックが解除されたら手を放します。
   タンデムフットレストが自動的に乗車位置まで出てきます。

タンデムフットレストの格納のしかた

1. タンデムフットレストの先端部を手で押して、格納位置まで押し込みます。

1. 先端部

2.「カチッ」と音がしたら手を放します。
   タンデムフットレストが格納位置でロックされます。

JAU14302

ヘルメットホルダー

1. ヘルメットホルダー

シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのあごひもの金具部分を掛け、シートをロックします。

JWA11651

⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JAU28521

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

JAU37131

フロントポケット

小物や、500ml のペットボトルなどが収納できます。

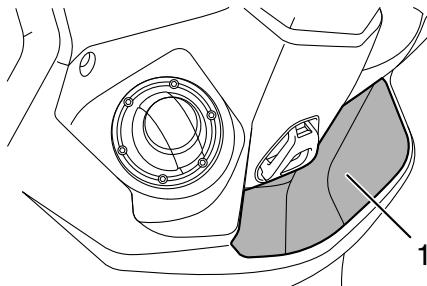
1. フロントポケット

JWA14171

⚠ 警 告

- **フロントポケットに積める荷物は 1.5 kg までです。**
- **ハンドル操作を妨げるような積みかたや、走行中に荷物が落下するおそれのあるような積みかたはしないでください。**

要 点

ペットボトルの形状によっては収納できないものもあります。

JAUT3901

コンビニフック

コンビニフックを引き出し、手さげ袋などを掛けます。

1. コンビニフック

要 点

コンビニフックは、自動的に元の位置には戻りません。

JWA11681

⚠ 警 告

コンビニフックに掛けられる荷物は、3 kg までです。

JAU28574

トランク

シートの下にトランクがあります。（3-11 ページ参照）

JWA12192

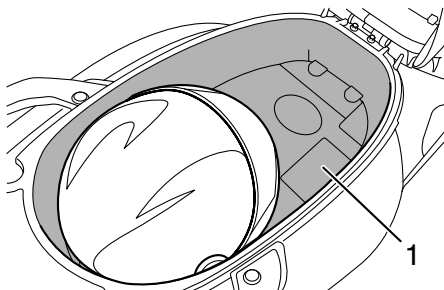
警 告

トランク内に積める荷物は、5 kg までです。

JCA12423

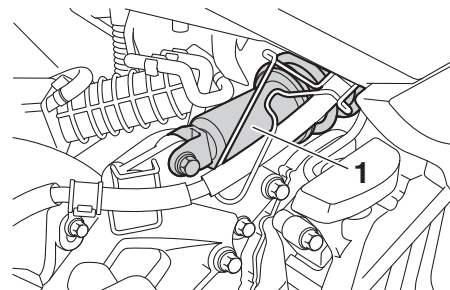
注 意

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

ヘルメットは、図のようにヘルメットの前部を前向きにして収納します。

1. トランク

要 点

- ヘルメットのサイズや形状によっては、収納できないものもあります。
- シートを開けたまま、車から離れないでください。

JAU46023

リヤクッション

1. リヤクッション

JWA10222

警 告

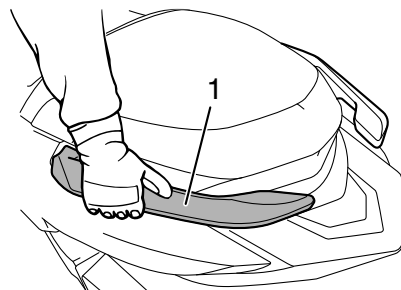
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユ**

ニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。

1. スタンディングハンドル

JAU48981

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JWA15421

警 告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

要 点

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JAU15599

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30173

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU45311

要　点

この車には、メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させる機構が装備されています。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。

JAUT3990

エンジン始動

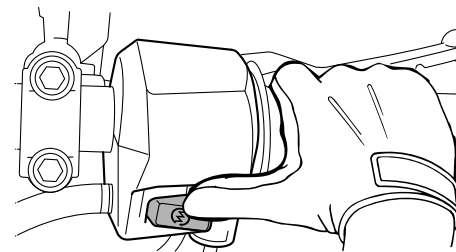
エンジンをかける前に

- エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行います。
- ガソリン、オイル量が充分あることを確認します。
- メインスタンドを立て、必ず車の左側から操作します。

要　点

サイドスタンドをおろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

エンジンのかけかた

1. メインスイッチを ON にします。
2. リヤブレーキレバーをしっかり握ります。
3. スロットルグリップを回さずに、スタータースイッチを押します。エンジンが始動したら、スタータースイッチから指をはなしてください。

要　点

- スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒ぐらい休ませてから押しなおしてください。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしてガソリンを補給した後などにエンジンが始動しにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチをいつもより長めに押してください。

JCA16661

注　意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ**

使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。

- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

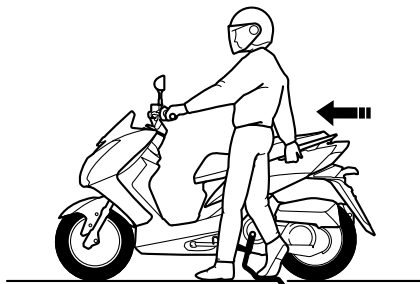
JAU45093

発進

JWA12261

警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

JWA12271

警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

警 告

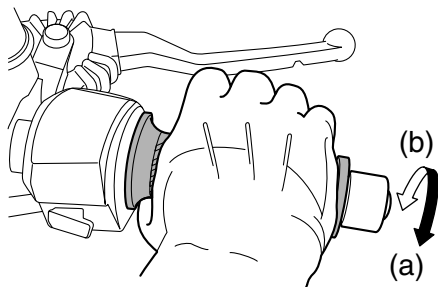
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

5. 方向指示器を消灯します。

JAU16782

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。

JCA12681

注 意

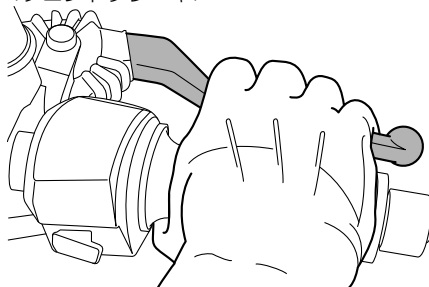
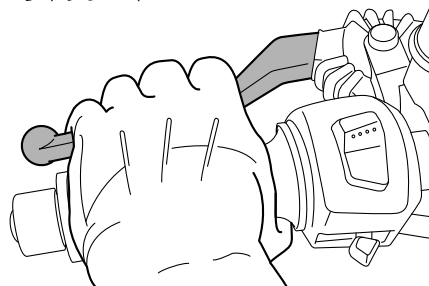
上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

JAU16794

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

<フロントブレーキ>

<リヤブレーキ>

JWA11573

⚠ 警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5700 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

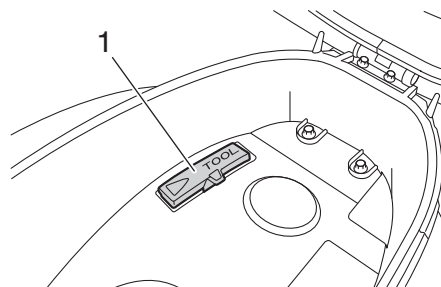
- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAUT4060

サービスツール

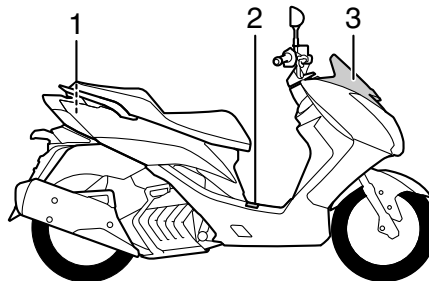
1. サービスツール

シートを開けてください。（3-11 ページ参照）

トランクの内張りを外すと、トランクの前方に格納されています。

JAU18752

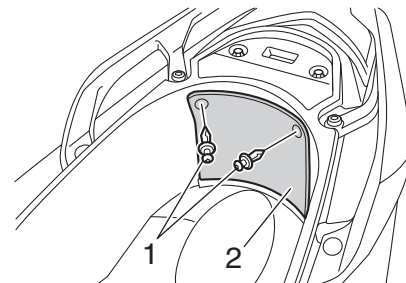
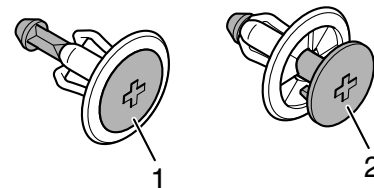
カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

1. カバー A
2. カバー B
3. カバー C

JAUT4000

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを開けます。（3-11 ページ参照）
2. クイックファスナーを外し、カバーを取り外します。

1. クイックファスナー
2. カバー A

1. クイックファスナー（取り付けた状態）
2. クイックファスナー（取り外した状態）

要　点

クイックファスナーの取り外しは、プラスドライバーでセンターピンを左に回して行います。

カバーの取り付けかた

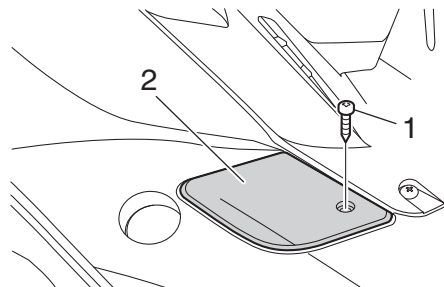
1. カバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。
2. シートを閉めます。

要　点

クイックファスナーの取り付けは、センターピンが出ている状態でカバーに取り付け、その後、センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。

カバー B

カバーの取り外しかた

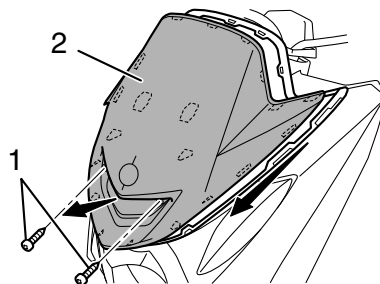
スクリューを外し、カバーを取り外します。

1. スクリュー
2. カバー B

カバーの取り付けかた

カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた

1. スクリューを取り外します。
2. カバーを下に引いて、手前に引き出し取り外します。

1. スクリュー
2. カバー C

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付けます。
2. スクリューを締め付けます。

JAU30305

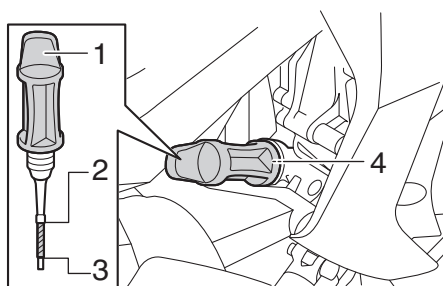
エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを２～３分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。（車を垂直にする）２～３分後、オイルが安定してからオイルレベルゲージを外します。レベルゲージ部をきれいにふいてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

1. オイルレベルゲージ
2. フルレベル
3. ロアレベル
4. オイル注入口

要　点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)
4. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

JAU30615

エンジンオイルの交換時期

エンジンオイルはエンジンを潤滑するだけでなく、エンジン内の清浄などを行っています。したがって、走行することで汚れて黒くなったり劣化していきます。

また、走行していないときも時間の経過によって劣化していきます。
汚れたオイルや劣化したオイルはエンジンの故障の原因となりますので、早めのオイル交換をおすすめします。

初回： 1 か月点検時または 1000 km 時 2 回目以降： 3000 km 走行ごと、または 1 年ごと エンジンオイル量： 0.95 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの色が以下のようになっているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。

- 汚れて黒くなっている
- 水分が混ざって白っぽく（乳白色に）なっている

ご不明な点は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11861

警　告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注　意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要　点

以下のような使用をした場合、オイルの劣化が早くなります。

- 短距離走行を繰り返す。
- アイドリングや低速走行の時間が長い。

JAU30664

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.20 L
推奨オイル：
ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU30691

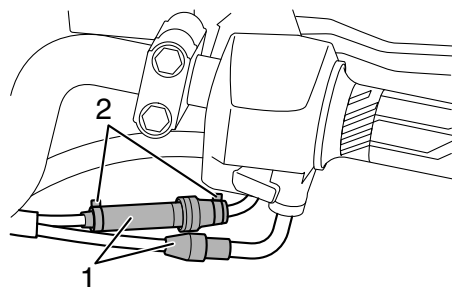
エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAUT3942

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーと固定のクランプが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

1. ゴムカバー
2. クランプ

JWA15531

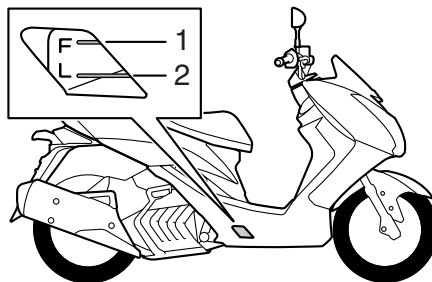
⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

JAUT2452

冷却水量の点検

1. フルレベル
2. ロアレベル

要　点

- 冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。
- 冷却水量の点検は、平坦な場所で車を垂直にして行ってください。

フットボード右下の点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30804

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12111

注 意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

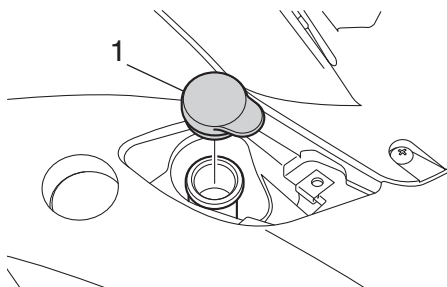
JAUT2813

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. カバー B を取り外します。（6-3 ページ

参照)

2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップ、カバーB を取り付けます。

要　点

冷却水の補充は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

注 意

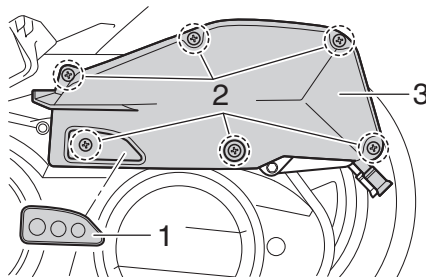
- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

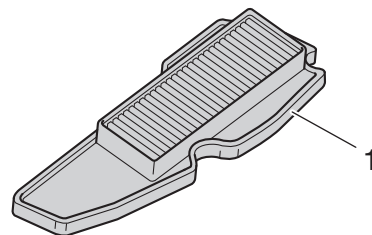
JAUT4010

エアクリーナーエレメント、V ベルトフィルターエレメント

エアクリーナーエレメントおよび V ベルトフィルターエレメントは 20000km 走行ごとに交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で交換を行ってください。

エアクリーナーエレメントの交換

1. メインスタンドを立てます。
2. カバーを取り外します。
3. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

1. カバー
2. スクリュー
3. エアクリーナーケースカバー

4. エアクリーナーエレメントを取り外します。
5. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

1. エアクリーナーエレメント

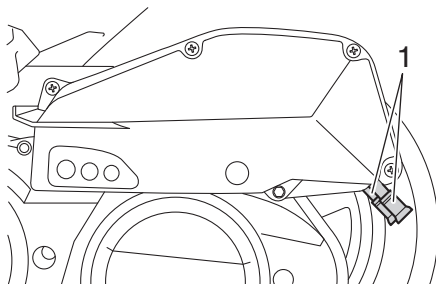
6. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
7. カバーを取り付けます。

JCA11951

注 意

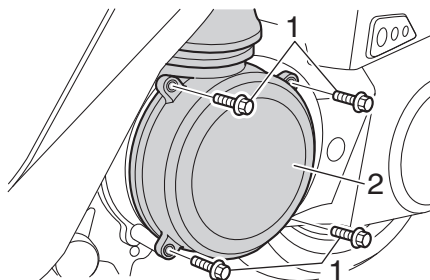
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

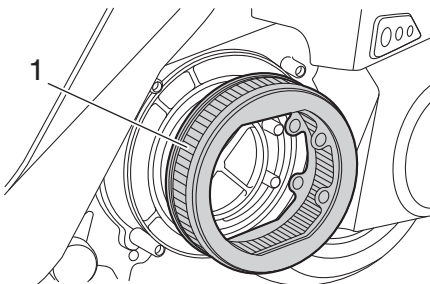
ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。

1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

V ベルトフィルターエレメントの交換

1. ボルトを外し、V ベルトフィルターケースカバーを取り外します。

1. ボルト
2. V ベルトフィルターケースカバー

2. V ベルトフィルターエレメントを取り外します。

1. V ベルトフィルターエレメント

3. 新しいVベルトフィルターエレメントをV ベルトフィルターケースに取り付けます。

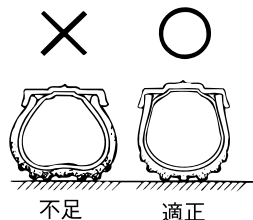
JCA13031

注 意

Vベルトフィルターエレメントは確実に装着してください。

4. V ベルトフィルターケースカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

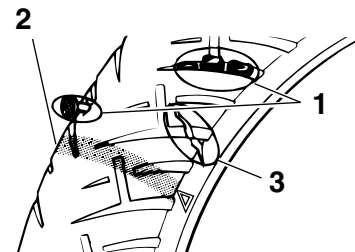
JAU31026

タイヤ
空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
高速走行（1 名乗車）：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
高速走行（2 名乗車）：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)

要　点
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠ 警 告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120 / 70 - 13 M/C 53P
後輪：
130 / 70 - 13 M/C 57P
指定タイヤ：
前輪：
KENDA / K703F
後輪：
KENDA / K703

JAU29161

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。

JWA11751

⚠ 警 告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

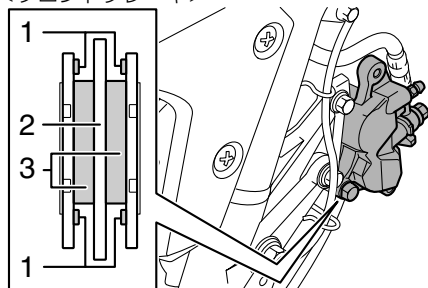
⚠ 警 告

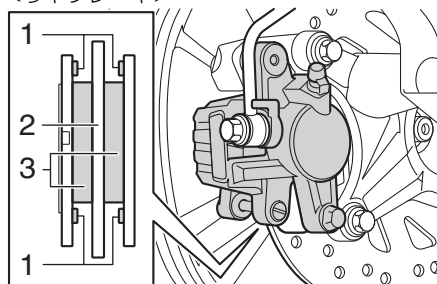
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU29561

ブレーキパッドの点検

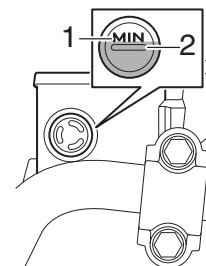
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間で摩耗の状態を点検します。
インジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

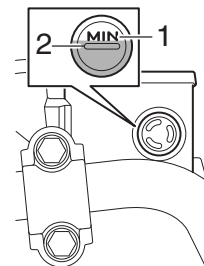
<フロントブレーキ>

1. インジケーター
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

<リヤブレーキ>

1. インジケーター
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

JAUT4020

ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>

1. MIN マーク
2. ロアレベル

<リヤブレーキ>

1. MIN マーク
2. ロアレベル

平坦な場所でメインスタンドを立て、ブレーキ液量点検窓の「MIN」マークが水平になる

6

ようにして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

JWA12151

警 告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

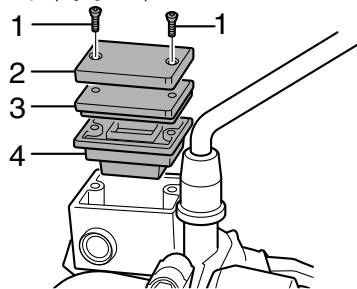
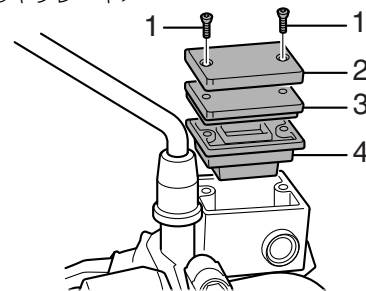
JAU31197

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。

＜フロントブレーキ＞

1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム

＜リヤブレーキ＞

1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警 告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないように**

してください。

- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

JCA12331

注 意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU28604

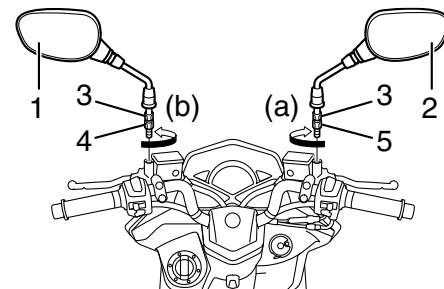
バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けボルトを時計回り（a）方向に回します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けボルトを反時計回り（b）方向に回します。

JCA15691

注 意

可倒部分締め付けナットは、ゆるめないでください。

1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 可倒部分締め付けナット
4. 左バックミラー取り付けボルト
5. 右バックミラー取り付けボルト

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

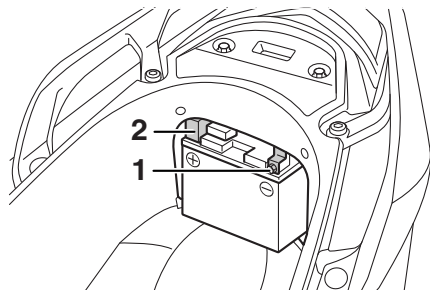
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAUT4030

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。（3-11 ページ参照）

3. クイックファスナーを外し、バッテリーカバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
4. −(マイナス)側リード線を外し、次に＋(プラス)側リード線を外します。

1. −リード線
2. ＋リード線

5. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JCAT1082

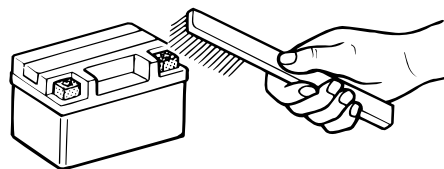
注 意

バッテリー交換後または充電後は、エンジンを始動する前にメインスイッチの ON/OFF を 3 回繰り返してください。このとき、OFF にしている時間は 3 回とも、3 秒以上としてください。

JAU29411

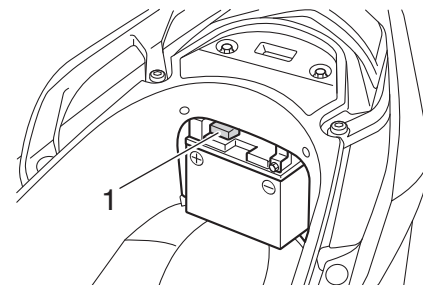
ターミナル部の清掃

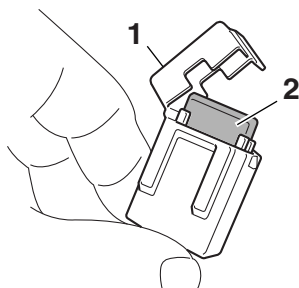
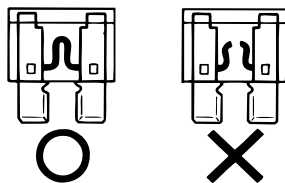
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

JAUT4041

ヒューズ交換

メインヒューズや系統別ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

メインヒューズの交換

メインヒューズホルダーは、バッテリー上方にセットされています。

1. メインヒューズホルダー

1. メインスイッチを OFF にします。
2. ヒューズホルダーカバーを押さえながら、引いてカバーを開けます。
3. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

1. メインヒューズホルダーカバー
2. メインヒューズ

規定ヒューズ： 20.0 A

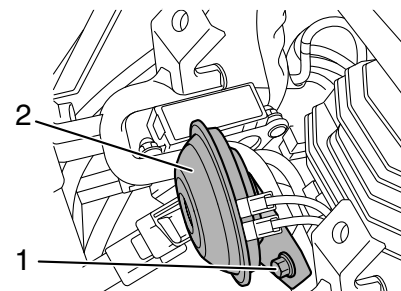
JCAT1152

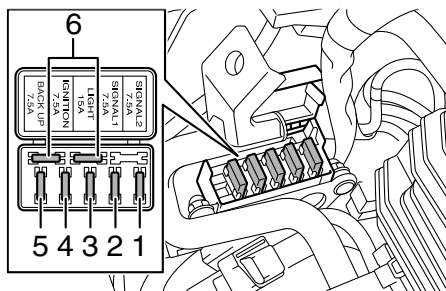
注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズホルダーのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**
- **ヒューズ交換後は、エンジンを始動する前にメインスイッチの ON/OFF を 3 回繰り返してください。このとき、OFF にしている時間は 3 回とも、3 秒以上としてください。**

4. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

系統別ヒューズの交換

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー C を取り外します。（6-3 ページ参照）
3. ボルトを外し、ホーンを取り外します。

1. ボルト
2. ホーン

4. 系統別ヒューズボックスカバーを押さえながら、引いてカバーを開けます。

1. シグナルヒューズ 2
2. シグナルヒューズ 1
3. ライトヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. バックアップヒューズ
6. スペアヒューズ

5. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

系統別ヒューズ：
シグナルヒューズ 1：
7.5 A
シグナルヒューズ 2：
7.5 A
ライトヒューズ：
15.0 A
イグニッションヒューズ：
7.5 A
バックアップヒューズ：
7.5 A

6. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
7. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
8. ホーンを取り付け、ボルトを締め付けます。
9. カバー C を取り付けます。（6-3 ページ参照）

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-15 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAUT4051

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の指針が “E” のときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから 5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？

2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認しても、スターターモーターが回らないときは・・・・

- メインスイッチを ON にして、ホーンスイッチを押します。ホーンが鳴らないときは、ヒューズ切れが考えられます。6-15 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で点検してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？（ヘッドライトの場合はエンジンが始動していますか？）
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. ホーンスイッチを押したときに、ホーンは鳴りますか？

- ホーンが鳴るときは、ランプ自体の球切れが考えられます。8-1 ページの規格に合わせて、同じものを使用してください。
- ホーンが鳴らないときは、ヒューズが切れていることがあります。6-15 ページを参照してヒューズを点検してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の指針が “E” のときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

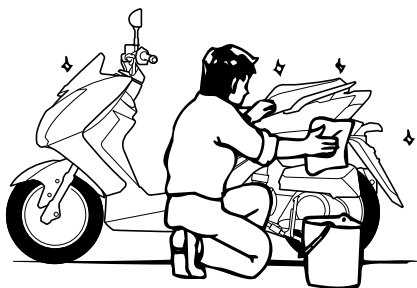
7

JAU27976

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス： ユニコンカークリーム

JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ**

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

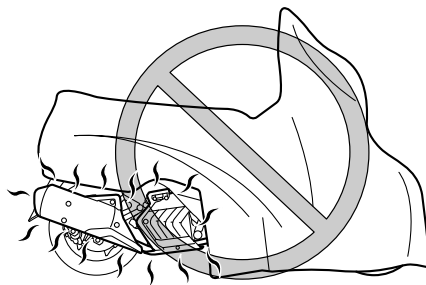
要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13111

注　意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。
- 保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、３か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28085

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　　検索

寸法 :
全長 :
2030 mm
全幅 :
715 mm
全高 :
1115 mm
シート高 :
795 mm
軸間距離 :
1405 mm
最低地上高 :
90 mm
最小回転半径 :
2.1 m

重量 :
車両重量 :
145 kg
分布荷重（前）:
61 kg
分布荷重（後）:
84 kg
車両総重量 :
255 kg
分布荷重（前）:
90 kg
分布荷重（後）:
165 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
定地燃費（国土交通省届出値）:
40.0 km/L/60 km/h
最高出力 :
11 kW / 7500 r/min (15 PS / 7500 r/min)
最大トルク :
14 Nm / 6000 r/min (1.4 kgf-m / 6000 r/min)

エンジン :
原動機種類 :
4 ストローク水冷 SOHC
気筒数・配列 :
単気筒
総排気量 :
155 cm^3
内径 x 行程 :
58.0 × 58.7 mm
圧縮比 :
11.0 : 1
エアフィルターエレメント :
湿式ろ紙
クラッチ形式 :
乾式内拡重錘式
変速機形式 :
V ベルト式無段変速
始動方式 :
セルフ式

車体 :
フレーム形式 :
バックボーン
キャスター :
26.0 度
トレール :
82 mm

ステアリングシステム :
ハンドル切れ角（左）:
45.0 度
ハンドル切れ角（右）:
45.0 度

燃料 :
フューエルタンク容量 :
7.4 L

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ

製品仕様

懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
ユニットスイング
緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパー
フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120 / 70 - 13 M/C 53P
メーカー / 銘柄 :
KENDA / K703F
リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
130 / 70 - 13 M/C 57P
メーカー / 銘柄 :
KENDA / K703
トランスミッション :
1 次減速比 :
1.000
2 次減速比 :
8.787 (45 / 13) × (33 / 13)
変速比 :
2.480–0.740 :1
エレクトリカル :
点火方式 :
TCI
ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ
バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 60.0 W/55.0 W × 1
ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
12 V, 10.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 10.0 W × 2
番号灯 :
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
マーカーランプ :
LED
パイロットランプワット数 x 個数 :
方向指示器表示灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
冷却水温警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量 :
定期交換時 :
0.95 L
ファイナルギヤオイル :
指定オイル :
ヤマルーブ ギヤオイル
オイル量 :
0.20 L
冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L

ラジエターと全ての経路 :
0.56 L
ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm
フロントディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
6.3 mm
使用限度 :
1.0 mm
パッド厚さ（外側）:
6.3 mm
使用限度 :
1.0 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
リヤディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
6.5 mm
使用限度 :
1.0 mm
パッド厚さ（外側）:
6.5 mm
使用限度 :
1.0 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
ホイールトラベル :
ホイールトラベル（前）:
79 mm
ホイールトラベル（後）:
93 mm
タイヤ空気圧（冷間時）:
前輪（1 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
高速走行 :
前輪（1 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
200 kPa (2.00 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
バッテリー :
バッテリー型式 :
GT7B-4
バッテリー容量 :
12 V, 6.5 Ah
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK / CPR8EA
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm
ヒューズ容量 :
メイン :
20.0 A
ライト :
15.0 A
シグナル :
7.5 A × × 2
イグニッション :
7.5 A
バックアップ :
7.5 A

JAU36642

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

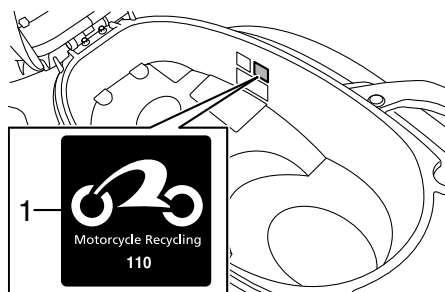
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム

http://www.Yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ

http://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

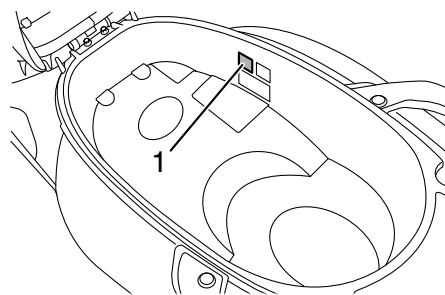
サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

マジェスティ S (XC155) サービスマニュアル　部品番号： QQS-CLT-000-2LD

JAU50233

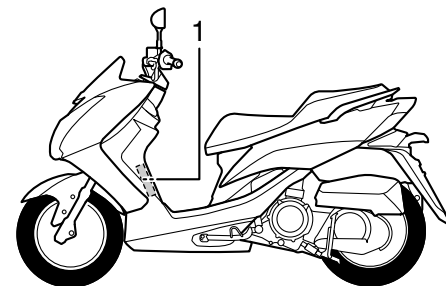
車両情報

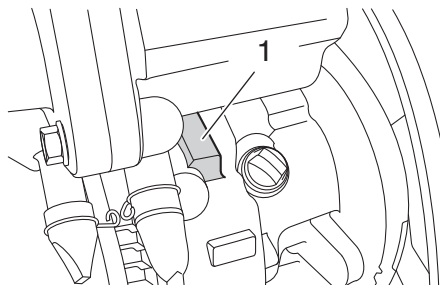
モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。

1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
マジェスティ S XC155
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

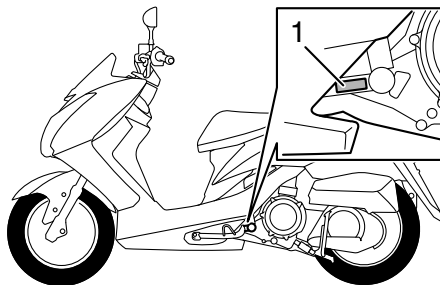
車台番号

1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

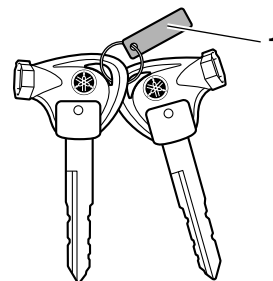
原動機番号

1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50521

型式認定番号

1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU51111

キー番号

キーを紛失または破損して、補修用のキーを注文するときに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

1. キー番号

キー番号記入欄：

索引

索引

あなたの街のあなたのお店

最寄のお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-101-2LD

PRINTED IN TAIWAN
2015.07-0.7 × 1 NKT
(J)